８　　常葉と母 　　　　　　　　　　　　　　　終止形接続の助動詞

常葉が母申しけるは、「左馬頭討たれぬと聞こえし朝より、いとけなき子ども引き具して、行方も知らずⅠなり候ひぬ」と申しければ、「いかで知らア（ず）べき」とて、さまざまの拷問に及び、母、片時の暇ある時申しけるは、「われ、六十にあまる老いの身Ⅱなり。ことなくして過ぐすとも、いくほどの命かあるべき。三人の孫どもは、いまだ十歳にもならぬ幼き者ども、もしことなくあり得ば、行方はるかⅢなるべし。今日明日とも知ら　　イ（ず）露の命を惜しみて、末はるかなる三人の命をば、いかでか失ひ候ふべき。たとひ行方知らせたりとも、申し候ふまじ」とぞ申しける。

常葉、大和にてこのこと聞き伝へて、「わが子を思ふやうに【　　　】、母も我をばかなしむらめ。我ゆゑ苦を受くと聞きながら、いかでか出でて助けざるべき。無量劫を経てもあらざる親子の仲なり。責め殺されてのちは、悔しむとも甲斐あらじ。母この世にある時、出でて助けむ」と思ひて、三人の子どもを引き具して、故郷の都へぞ帰りウ（けり）。

【本文チェック】

①（　）ア～ウの中の助動詞を、正しく活用させて（　）に書きなさい。

ア（　　　　　　）　イ（　　　　　　）　ウ（　　　　　　）

②　Ⅰ～Ⅲの「なり」「なる」は、Ｘ動詞・Ｙ形容動詞の一部・Ｚ助動詞のどれか。それぞれ〔　〕に記号で書きなさい。

Ⅰ〔　　　〕　Ⅱ〔　　　〕　Ⅲ〔　　　〕

③本文中の空欄【　】に適当な係助詞を入れなさい。

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　暇〔３〕　ひま・（　　　　　）

２　露〔５〕　（　　　　　）

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　あらたまの年たちかへるあしたより待たるるものはの声（古今集）

ア　朝　　　　イ　翌日

ウ　その次　　エ　その前

（　　　）

２　人ざまなど、いとかくしも具したらむとは、え推しはかりたまはじ、

（源氏物語）

ア　連れ　　イ　整っ

ウ　選ん　　エ　備わっ

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　この川にもみぢ葉流る奥山のの水ぞいままさるらし（古今集）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　ちてびし水のれるを春立つ今日の風やとくらむ　　　　　　　（古今集）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　世の中に物語といふもののあんなるを、いかで見ばやと思ひつつ、

（更級日記）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

４　少しおぼえたるところあれば、子なめりと見給ふ。（源氏物語）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

問４　次の傍線部の助動詞の文法的意味を、後から選べ。

１　この御にほひには、ならび給ふべくもあらざりければ、（源氏物語）

（　　　）

２　「へ給ふことなかれ。必ず救ひまゐらすべし」（雨月物語）

（　　　）

３　宮より御使あり。はすこしもの思ひ慰みぬべし。（源氏物語）

（　　　）

４　火をつけて燃やすべきよし仰せ給ふ。（竹取物語）

（　　　）

ア　推量　　イ　意志　　ウ　当然・適当・義務　　エ　可能

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　冬枯れのけしきこそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ。（徒然草）

（　　　　　　　　　　　　　）

２　羽なければ、空をも飛ぶべからず。（方丈記）

（　　　　　　　　　　　　　）

【探究】発展的に考えてみよう

問６　本書の【資料】の後に続く場面の設定で、次のどちらかを選んで、相手に気持ちを伝えよう。

ア　老尼から常葉に対して。

イ　常葉から老尼に対して。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝ざる　イ＝ぬ　ウ＝ける

②　Ⅰ＝Ｘ　Ⅱ＝Ｚ　Ⅲ＝Ｙ

③　こそ

問１　１＝いとま　２＝つゆ

問２　１＝ア　２＝エ

問３　１＝推定・終止形　２＝現在推量・連体形

　　　３＝伝聞・連体形　４＝推定・終止形

問４　１＝エ　２＝イ　３＝ア　４＝ウ

問５　１＝劣らないだろう　２＝飛ぶことができない

問６　観点　アの場合は怒りを鎮めた後、娘や孫の可愛さがよみがえるかもしれない。イの場合は、やはり母親を見殺しにしたくないことを訴えるかもしれない。

【現代語訳】

問２　１　年が最初に戻る（正月の）朝から心待ちに待たれるものは、鶯の声だよ。

２　（姫君に）人柄や顔立ちなどが、たいへんこんなにも備わっていようとは、

（宮は）推測なさることはできない、

問３　１　この川に今ごろもみじの葉が流れている。奥山では雪が解けて、水が増しているらしい。

２　（夏に）袖を濡らしてすくった水が、（冬の間）凍っていたのを、立春の今日

の風が今ごろ溶かしているだろうか。

３　世の中に物語というものがあるということだが、（それを）なんとかして見た

いと思い続けて、

４　少し似ているところがあるので、（尼君の）子であるようだと（源氏は）見な

さる。

問４　１　このお美しさには、お並びになることができそうにもなかったので、

２　「あなたはご心配なさいますな。（私が）必ず救ってさしあげよう」

３　宮から御使いがあった。（心細い）折なのできっと少しは物思いも慰められる

ことだろう。

４　火をつけて燃やすべきことをご命令になる。

問５　１　冬枯れのありさまは、秋（のありさま）にはほとんど劣らないだろう。

２　羽がないので、空を飛ぶことができない。